

ASUたちばな会報

第4号（令和元年10月発行）

学園の思い出	辻原 清春	1
三河高校に感謝	村野 誠	4
「キョウイク」と「キョウヨウ」	蜂谷 勝秀	6
旅の楽しみ	水野 伸一郎	8
ASUたちばな会 これまでの歩み	成瀬 正直	11
令和元年度ASUたちばな会 総会 次第		14
事務局より	増田 洋平	15

学園の思いで

辻原清春

私は 43 歳のとき中途採用され、平成 5 年 9 月 1 日より勤め始め平成 26 年 4 月 30 日付けで定年退職。その後の非常勤を合わせると 23 年 7 ヶ月奉職させていただきました。

最初、名古屋工学院専門学校高等部（3 年 7 ヶ月）、次に東海工業専門学校高等部（3 年）、最後に愛知産業大学高等学校（14 年 1 ヶ月）、非常勤講師（2 年 11 ヶ月）でした。

採用までの途中経過を申しますと、平成 5 年にバブル崩壊が起こり、勤めていた機械設計派遣会社においても影響を受け、中堅技術者に退職勧奨が行われ悩んでいる時に新聞紙上で東海工業専門学校製図科の広告が出ていたので、人事課に直接電話をして「現在求職中です」と訳を話したところ「電波学園本部に履歴書を送付して下さい」と言われ、早速郵送しました。半年ほど経って面接通知があり、水野恒治理事長先生に会っていただきました。その時は製図講師と思っていたのですが、先生から言われたのは通信制高等部の教員採用でした。教員資格も持っていない私がいきなり先生と呼ばれて、工学院高等部で努めさせていただきました。全校集会のとき、空手部副顧問として紹介してもらいました。これは大学時代に空手部にいて社会人になってからも余裕があるときには道場やカルチャーセンターで健康維持のため練習をしていた賜物でした。

授業科目では、電子工作や電気実習があり、特に右も左もわからない私にとって電子工作の電話機キット作りは永井先生の補助員として入り、少し太った体と大声でキット作業指導する光景は小学生に接しているようで、生徒も喜んで手作業を学んでいるのが新参者の私には、気持ちを楽にしてもらいました。その後学園生活が過ごし易くなりました。職員室の席配置にしても隣に体育の先生、社会の先生、国語の先生、英語の先生がいて企業の設計課にいた私には目をくるくるする毎日でした。仕事の内容も一変しました。早朝の登校指導、昼食指導、下校指導、ST、生徒への連絡、毎日の教室・トイレ掃除さらに月一回の頭髪検査、

適宜の持ち物検査、下校指導にいたっては、学校はもとより、周辺の駅前、時には駅（改札）構内にまで入っていき巡回しました。

これらは、生徒諸君の不良、いじめ、風紀の乱れの防止に大変役立ち、私自身も工場や設計室の限られた所から外に飛び出し学校教育の幅広さを感じました。あるとき、空手の試合で引率したとき対戦相手は東邦高校でした。三重県出身の私は愛知県の高校の知識が全くなく、強豪校であることを後で知り結果は負け試合でしたが、よい勉強になったと思いました。

次の転任校は、東海工業専門学校高等部です。1年目に1年生の担任をすることになりました。ベテランの老副担任（竹田巖先生）が補佐してくれました。3名の退学がありましたが、特に生徒の間に気まずい雰囲気はなく、欠席の予兆もなかったのですが、突然退学していきました。私自身も悩みを引きずることはありませんでした。東海工業専門学校高等部は専門部の横にあり、校舎はマンションを改築した小じんまりとした建物で、教室、製図室、実習棟および体育館等は専門部と共通で使用していました。私の担当授業は機械製図、部活動は囲碁部の担当でした。また立地条件は名鉄神宮駅東裏側に位置し、徒歩で2～3分のところにあり、大変利便性のよい所でした。

最後の転任校は、東海工業高等学校（現 愛知産業大学工業高等学校）で、臨免で教員として3年間採用され、その不足科目、職業指導、情報処理操作の2科目の単位習得のため某大学夏期集中講座を受講（夜間2年間）し、工業高校教員免許1級を取得しました。担当科目は製図、実習が主でしたが、少しずつ座学に移り自動車工学、電子機械を担当するようになり、教科担任、工務科として定年まで勤務させていただきました。この期間に木造の旧職員室解体、北側の体育館解体、8階建の本部棟建設、北側の実習棟建設、本校舎の耐震工事等がありました。私は、直接建設には関わりませんでしたが、工務科としてこまごまとした営繕作業に携わりました。特に毎日の放課後のゴミ収集、分別、清掃、コピー室の紙補充、岩塚グラウンドのネット撤収（台風時）など多忙な日々でした。その他、朝の登校指導、昼食指導のサポートをさせていただきました。また新入生歓迎会、体育祭、修学旅行、遠足、マーチング演奏、予餞会などの行事があり楽しい時間

もありました。学科の方では、機械実習が面白く、溶接、溶断、内燃機関の解体・組み立て、材料破壊試験、引っ張り試験、旋盤など生徒との交流深いものになりました。私は、高等学校は普通科、大学は電気工学科の出身で、材料破壊試験や引っ張り試験は専門的に学んだ経験がなく、専門書を片手にはらはらの授業で緊張する授業でした。課題研究も4～5名の生徒が集まり、電子キット製作、機械製図を担当させていただきました。

部活動においては、空手部、登山部および囲碁部の副顧問を担当させていただきました。それぞれに活動に参加して、楽しく過ごさせていただきました。

また阪神淡路大震災を風化させない取り組みとして、毎日新聞主催「防災甲子園」に県内の公立高校とともに研修に参加し1年間生徒とともに勉強させていただきました。これも全て校長先生、教頭先生をはじめ諸先生方のお陰で大過なく務めることができました。

今後ともASUの皆様が健康で職務に励まれますよう祈念いたします。

三河高校に感謝

村野 誠

私は12年間勤務した東海工業高校から、昭和59年1年生の担任として三河高校へ着任しました。着任早々戸田校長先生に呼ばれ「1年生に電気工事士を受験させて、数年で名前が出る学校にしてほしい。」と指示が出ました。当時は考えられない難題でしたが、校長先生の強い希望だったので1クラスを選抜し指導を開始しました。

入学してから夜7、8時までの特訓を行った結果30数名の生徒が学科試験に合格しました。ただちに実技試験の訓練を開始したのですが、1年生には大変過酷で、ドライバーを持った手がけいれんしたり、過呼吸で倒れたり、金属管を逆に曲げたり、毎日1、2名の生徒が泣きながら頑張っていました。

夜になって、保健室で休ませていた過呼吸の生徒を車で送りながら「体力が無いから明日からしばらく休むか」と言うと、後ろ座席に寝ながら「やります、やります」と言います。1ヶ月以上続いた特訓も、最後まで一人も落伍することなく実技試験を迎えることができました。

試験会場の外で心配そうに待っていた私を見つけて「先生これ」と言ってニコニコしながらVサインをして出てきた時は、辛かったけど本当に良かったと胸が熱くなりました。

結果は32名が合格し1年生でも頑張れば合格できると証明され、電気科の先生方が自分のクラスも受験させると次々に手を上げていただき、翌年から全員受験が始まりました。

2・3年生では難度の高い第一種（高圧）電気工事士、第三種電気主任技術者の受験指導も始まりました。

電気の国家試験は受験合格しなければ取得できず、当然先生も生徒と同じ会場で受験することになります。生徒が勉強すれば、先生はそれ以上に勉強しないと指導できません。私も生徒と一緒に勉強していくつかの資格を取得できました。

おかげさまで青森・長崎・三重・東京・石川など全国各地から学校訪問を受けるまでになりました。ご協力いただいた先生方に深く感謝いたします。

戸田先生とのお約束が少し果たせたように感じます。

定年後も3年間非常勤講師をさせていただきありがとうございました。

平成28年非常勤講師も終わりゆっくりできると思っていたところ、傍会社より新入社員教育の講師の依頼がありました。

一度はご辞退申し上げたのですが、所長さんから「受講生は三河高校の卒業生です。是非お願いします。」と聞き、お受けすることにしました。

社会人は仕事しながらの勉強ですから常に全力投球で頼もしく思います。休日は図書館で9時から5時まで勉強する人もいます。月2,3回の講義ですが毎回質問があり、毎日の勉強の様子が伺えます。

昨年は全国合格率10%程度なのに8名中5名合格することができました。

合格するとすぐ第二種の受験を目指して勉強を始める者もいます。

リタイヤ後も少しですが人の役に立てる生活ができる自分を育てていただいた三河高校に感謝いたします。

岡崎に36年住み第2の故郷にするつもりでいましたが、29年共働きの娘家族のため多治見市に引っ越しました。小学校に近い毎日孫が帰ってきます。

おやつ、宿題が終わると遊びに出ます。

「今日の晩ご飯は何？」ジジババには遠慮一つありません。

日曜・祝日は孫からの開放日で車旅に出ます。

最初に四国のお遍路に、「無事に仕事を終わることが出来たお礼と、これからの健康を願って巡礼しました。」車で巡りましたのでご利益があるかどうかわかりません。その後、山陰、北海道一周、東北、北陸など時間に追われない気ままな旅をしています。車旅では予定になかった小林一茶・野口英世記念館、星野富弘美術館（不慮の事故で手足の自由を失い筆を口にして草花の絵を描く）など思わぬ出会いがあるのも楽しみです。地域の農家さんは散歩する星野さんのために田んぼの畔の草花を残すそうです。大勢の人に愛され「私にできることは小さなこと。でも、それを感謝してできたら大きなことだ。」という言葉に胸を撃たれました。

私も残り少ない人生に感謝し、孫と遊び、余暇を楽しみながら生きたいと思えます。

「キョウイク」と「キョウヨウ」

蜂谷勝秀

私は、平成 26 年 9 月に 20 年 6 か月お世話になった学園を退職しました。退職後 1~2 ケ月は各種保険の手続きや、送別会のお誘いでそれなりに忙しい日が続きました。又 65 歳になり敬老パス（名古屋市民対象の低額な交通パス）が頂けたので、一人で名古屋市内を観光して歩いたりしました。しかし年末が近づいたころには、市内観光も主な場所は廻ってしまい、また飲み会のお誘いもピタリと無くなり、行くところも、することも無い状態になってしまいました。その時以前の職場で、ある先輩から言われた言葉をふと思い出しました。それは「蜂谷君、退職後一番大切なことはキョウイクとキョウヨウだよ」というものでした。いまさら教育と教養と言われてもすでに手遅れではないかと思いましたが、実はキョウイクとは「今日行く」で、キョウヨウとは「今日用」のことだと教えてくれました。確かに今日行く場所と、今日やるべき用事を持つことは充実した退職後を送るには欠かせないことだと思います。

かくして、私も「今日行く」と「今日用」を確保すべく、行動を起こすことにしました。年明け頃から何故だか、もう一度働きたいという意欲に駆られ、ネットで求人検索をしたところ、「労働相談員」募集の求人を見つけました。幸い採用され平成 27 年 4 月から中日ビルの中にあった（過去形今は無い）「愛知労働局栄労働相談コーナー」に勤務することになりました。非常勤ではありましたが、国家公務員ということになりました。1日に10件くらいの電話相談と2~3件の来庁者に対する面接相談を行いました。相談内容は、「解雇」・「残業代未払い」・「長時間労働」・「有給未消化」等様々でしたが、何と云っても一番多かったのは「パワハラ・いじめ・嫌がらせ」の相談でした。中には、上司が仕事を教えてくれるので、一生懸命メモを取ったら、「メモなんかとるな！頭に叩き込むのだ！」と言われ、次はメモを取らずに覚えようとしたら、「仕事を教えてやっているのに、どうしてメモを取らないのだ！」と言われた。「私はどうすればいいのでしょうか」と

いう相談もありました。まあ、こんな上司に当たったら災難としか言いようがありません。また毎日一定時刻に現れる、いわば常連さんとも言うべき相談者もいて、毎回同じ話を 1 時間くらい一方的に話し続け、しゃべり疲れると帰っていききました。

労働局には、3 年間勤め昨年 3 月に退職しました。その間「東海シニア自然大学」という学校にも 1 年間通いました。この学校は自然の中でのフィールドワークを主な活動としていて海、山、川、湿地等に出かけ、昆虫や魚、貝、きのこ等を探取して観察するという、子供のころ以来の久しぶりの経験をすることができました。「性転換する植物(ミクニテンナンショウ)、一部の種類(シマリス)を除きニホンリスはドングリが大嫌い、17 年毎に大繁殖するセミ(素数ゼミ)」等の話も大変面白いものでした。皆さんも自然に興味があれば、一度入校を検討されたら如何でしょうか。

労働局を退職するにあたっては、次のキョウイクとキョウヨウが必要でした。事前にいろいろ検討した結果、河村名古屋市長が学長をしている「名古屋市高年大学鯉城学園」に入学することにしました。ちなみにこの学校は名古屋市の税金で賄われている部分もあるということで、60 歳以上の名古屋市民しか入れません。2 年課程で、私は昨年 4 月に入学し現在 2 年生に在学中です。週に 2 日、授業(座学)とクラブ活動があり、同年配の方が大勢元気に通学しています。中には 80 歳以上の人も通っています。

高年大学鯉城学園も来年 3 月には卒業ですので、そろそろ次はどうしようかと考えはじめているところです。なにしろ年金生活者ですのでお金のかからないというのが必須要件です。そこで今度は少しボランティアにも挑戦してみようかと思い、なにかゆるいボランティアはないかと検討中です。

皆さんも常にキョウイクとキョウヨウを忘れず、健康で充実した生活をお送り下さい。

旅の楽しみ

水野伸一郎

退職後の生活を書いてくださいと頼まれ、思いついたのが上のタイトルである。既に退職してから7年超。ふり返れば海外も国内も結構いろんなところに行った。ただ旅は私にとって退職後の生活の一つというより、大学生の時にシベリア鉄道に乗ってソ連各地を旅行して以来の「テーマ」と考える。旅にはいろんな楽しみ方があると思う。名所旧跡、グルメ、ショッピング、旅先で出会う人々など。誰もそうした旅の思い出があるのではないだろうか。私も同様であるが、より旅が印象深くなり、場合によっては強い感動を覚えるのは「偶然」出会ったさまざまな人々、イベント、食べ物などなどが予想と大きく異なるときである。以下は私が遭遇した最近の旅の「こぼれ話」である。

カンボジアのアンコールワットを訪問したときのこと。私達夫婦を案内してくれたガイドさんはそれまでに会った人たちよりも日本語がうまかった。あちこちを案内された後、

「どこで日本語勉強したんですか？」と尋ねる。

「キャンプです。難民収容所。そこで日本のボランティアから教えてもらいました」。

大量虐殺を逃れ難民キャンプでつかんだこの人の運。細かいことは訊かなかったけれど、少ないやり取りからいろんなことが想像でき、この人のさわやかな笑顔に感動。

次はサンフランシスコの「お祭り」の話。「お祭り」は毎年6月下旬にLBGTの人々が世の中にアピール。世界各地で行なわれているが、現地の人は胸を張って「サンフランシスコのパレードは世界一」と自慢する。ケーブルカー、バス、路面電車など地上の交通はこの日マヒ状態。私達が乗った市バスはパレードを避け公式ルートを大幅に外れて「運行」。おかげで市内を移動するのは大変だったが、独特のムードだが元気の良い(?) 迫力に圧倒され不思議と腹も立たなかった。

次は相撲小話。ヴェリコ・タルノヴォは12～14世紀の間ブルガリアの首都として栄えた。人口7万はいかにも小さな街だ。断崖絶壁にホテル、レストランなどが立ち並ぶ風光明媚な街だ。ホテルに着くとロビーで従業員の人が何かを指して何か言っている。なかなか意味がわからないので、近寄ってみる。そこには「琴欧州」の像が置いてあった。

実はこれと似たことが、エストニアのタリン空港でもあった。こちらは搭乗口の近くに大きな「杷瑠都」の写真が張ってあった。何でも空港を通った有名人の写真とのこと。残念なのは各国首脳や芸能人の中に日本人はひとりもなかったことだ。「相撲小話」は結構あちこちである。先日もジョージアのトビリシで「栃ノ心」の写真を見たという人に会った。

日本国内も旅行している。この何年かは東北に何度も足を運んだ。やはり東日本大震災が自分の記憶の中に住み続けているのかも。このように書くと始終鎮魂の旅をしたかのように思われるかもしれない。だが旅はいろいろなものを見せてくれる。花巻空港から車で走っていると、「突然」(少なくとも自分にはそう思えた)眼に飛び込んできたのは「あの花巻東高校」。メジャーリーグへ入った大谷選手はこんなところから……。私はなぜかこれだけで妙に興奮し感動した。

旅をするにはいろんな条件が必要だ。まず元気でなければならないし、時間的や経済的にも多少は余裕がなければならないだろう。そしてなんといっても旅そのものが楽しくなければならない。旅の帰りに「ああよかった」といえるような心がけたい。

追伸 この時点では菊池はメジャーには行っていなかったことをお断りしておきます。その後彼もメジャーへ行くことが決まったことを知り、もう一度花巻に行ってみようかと思う。

ASU たちばな会 これまでの歩み

成瀬 正直

本会は、平成 23 年(2011 年)6 月、「学園への思いを伝える場所を作る事、5 年後、10 年後に社会とは別のところでゆっくりとお話できる場所づくり、同じ職場、同じ学園内の学校に勤務していたことを懐かしく思う皆さんが集まってそのころの思い出、今現在の学園の状況をお話になってはどうでしょうか。」という小倉理事長(現学園長)の趣意により発足しました。

発促の経緯

発起人会

兼元博史、首藤常雄、竹内幹彦、中村郁元、福井俊彦、三戸 薫、三村昌勢
本川暉久、横江嘉明・・・9 名

第一回会議を平成 23 年 6 月 21 日に行い、小倉理事長(現在学園長)と打ち合わせをする。第二回を 6 月 30 日、第三回を 7 月 20 日に実施し、9 月 17 日に発足式と第一回総会を設定する。

入会状況

平成 8 年度より平成 22 年度までの退職者 529 名のうち、勤続 8 年以上の 214 名を対象とし、住所不明等を除く 167 名に案内文を発送した。

入会する 47 名、入会しない 39 名

返信なし 66 通、住所地に宛所なし 15 通

平成 23 年度(2011 年) 会員 47 名

9 月 17 日(土) 愛知産業大学工業高等学校 2 階第一会議室にて、発足式と第一回総会を実施する。(参加者 17 名)

「ASU たちばな会」と称し、会長を兼元博史とした。

名称について、愛知産業大学工業高等学校校友会「たちばな会」会長より了承をいただく。(名称が類似することに対する確認をする)

役員 会長 兼元博史
理事 首藤常雄、竹内幹彦、福井俊彦、三村昌勢、本川暉久
監事 中村郁元、横江嘉明
事務局 成瀬正直

10月26日(水) 本部7階会議室にて、理事会を実施する。

学園設立60周年記念式典参加について、新年会の実施について

平成24年1月31日(火) 賀城園にて新年会を実施する。(参加者16名)

平成24年度(2012年) 会員数50名

9月1日(土) 総会の開催を予定したが、参加者少数のため延期をする。

9月21日(金) 本部7階会議室にて、理事会を実施する。

11月11日(金) ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋にて、学園
設立60周年、工業高校50周年記念事業に参加する。(参加者21名)

平成25年1月12日(土) 愛知産業大学開学20周年記念式典に参加する。

(愛知産業大学コミュニティーホール3F)

言語情報共育センターにて総会を実施し、理事長に挨拶をいただく。

(参加者12名)

平成25年度(2013年) 会員55名

10月19日(土) 愛知産業大学学校祭(原山祭)にて、ASUたちばな会主催「健
康増進スポーツ教室」を開催する。

11月22日(金) 愛知産業大学三河高等学校の30周年記念式典に参加する。

愛知産業大学恒誠館にて記念公演(渡部陽一氏 戦場のカメラマン)

総会を愛知産業大学コミュニティーホール2Fにて実施する。(参加者17名)

平成26年度(2014年) 会員57名

9月13日(土) 工業高校橘校舎管理棟2階会議室にて、理事会・総会を実施
する。(参加者9名)

11月1日(土) 愛知産業大学学校祭(原山祭)にて、「健康増進スポーツ教室」

を開催する。

平成 27 年度(2015 年) 会員 57 名

7 月 25 日(土) 本部 7 階会議室にて、理事会を実施する。

10 月 17 日(土) 工業高校伊勢山校舎 2 階会議室にて、理事会、総会を実施する。役員改選により原康二を会長に選任する。(参加者 16 名)

校長 長谷川昌先生より挨拶をいただく。

工業高校新校舎を見学(伊勢山校舎)する。

平成 28 年 2 月 6 日(土)、新年会を名鉄神宮前駅「あつた弁天」で実施する。
(参加者 8 名)

平成 28 年度(2016 年) 会員 55 名

6 月 4 日(土) 本部 7 階会議室にて、理事会を実施する。

規約の改定を行う。①入会条件の勤続 8 年以上の円満退職者を削除

②退職者便りを「ASU たちばな会報」に変更する。

ASU たちばな会報 第 1 号作成

10 月 1 日(土) 三河歯科衛生専門学校 1 階会議室にて、理事会・総会を実施する。(参加者 11 名)

教務部長 近藤保子先生より挨拶をいただく。

その後、三河高校の文化祭に参加する。

10 月 24 日に会報 1 号と学園情報誌「コミュ」等を発送する。

平成 29 年度(2017 年) 会員 56 名

4 月 15 日(土) 本部 7 階会議室にて、理事会を実施する。新たに、理事に杉浦三雄、監事に渡辺孝夫を選任する。

役員 会長 原 康二

理事 兼元博史、杉浦三雄 福井俊彦、三村昌勢、本川暉久

監事 横江嘉明、渡辺孝夫

事務局 成瀬正直

5 月 25 日(木) 学園創立 110 周年記念式典に参加する。

愛知産業大学工業高校新体育館(竣工式)

ASU たちばな会報 第2号作成

10月14日(土) 愛知産業大学工業高校管理棟3階会議室にて、理事会及び総会を実施する。(参加者16名)

校長 長谷川昌先生より挨拶をいただく。

その後、工業高校の新体育館を見学する。

10月26日に会報2号と学園情報誌「コミュ」等を発送する。

平成30年2月3日(土) 新年会を神宮前駅前「あつた弁天」にて実施する。
(参加者10名)

平成30年度(2018年) 会員59名

6月2日(土) 本部7階会議室にて、理事会を実施する。

三河高等学校の高校全国高等学校野球(甲子園)大会第100回記念大会出場に1万円を寄付する。(8月上旬)

ASU たちばな会報 第3号作成

10月6日(土) 愛知産業大学三河中学校3階302教室において、理事会・総会を実施する。(参加者15名)

三河高校校長近藤彰先生及び三河中学校教頭近藤政弘先生より挨拶をいただく。また、教頭より中学校の歩みを紹介していただく。

その後、三河中学校・高等学校の授業参観(英語)を実施する。

10月26日に会報3号と学園情報誌「コミュ」等を発送する。

以 上

令和元年度
ASUたちばな会 総会 次第

日 時：令和元年10月26日（土）11時～12時

場 所：ELIC ビジネス&公務員専門学校 6階 601教室
名古屋市熱田区新尾頭1-12-10
TEL052-683-0035

事 項：

黙 待 （物故者 関総一郎 様 平成31年3月17日命日）

1. 開会のことば
2. 会場校の校長あいさつ
ELIC ビジネス&公務員専門学校 校長森登志男先生
3. 会長あいさつ
4. 新入会員の紹介（30年度4名入会）
5. 平成30年度活動報告
第1回理事会
日時 平成30年6月2日
場所 法人事務局7階 会議室 8名参加
総会及び第2回理事会
日時 平成30年10月6日
場所 愛知産業大学三河中学校 15名参加
ASUたちばな会報 第3号 発行
6. 平成30年度会計報告
7. 令和元年度活動計画
第1回理事会 令和元年 6月15日
総会及び第2回理事会 令和元年10月26日
ASUたちばな会報 第4号 発行
食事会の開催
8. 規約の変更、その他
9. 閉会のことば

以 上

事務局より

この度、会報第 4 号を発送させていただくことになりました。これは皆様のご協力の賜物だと思っております。誠にありがとうございます。

さて、ご挨拶が後になりましたが、この度「ASU たちばな会」を担当させていただくことになりました法人事務局業務課の増田と申します。今年度 10 月 1 日に採用されたばかりですので、色々と勉強させていただく毎日でございます。これからこの「ASU たちばな会」を通じて学園について理解を深めるとともに、より一層の発展に寄与できるよう努力していきたいと考えております。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。

連絡先：法人事務局 業務課 増田 洋平

E-mail：ymasuda@asu.ac.jp

〒460-0016 名古屋市中区橋 2 - 6 - 1 5

TEL：052-339-2781 FAX：052-339-2782